

■	重点目標	評価指標	具体的方策	実績(基準日:3月13日)	課題等	担当部課
1	多角的な学生募集活動の推進による入学者の増加 (教務課、養成部、研修部)	令和7年度入学試験合格者数 40名 (R4実績:34名、R5実績:39名) 入学者数 R4:31名、R5:39名	(1)学生募集PR版の作成(新寮やスマート農業をアピールする内容を拡充) (2)農大キャラバン隊の県内高校訪問による学生募集(6月) (3)各高校の進路ガイダンスへの参加による農大PR (4)農大オープンキャンパスの開催(5月、10月) (5)農大体験カレッジの開催(7月) (6)農業関係高校・農大連携会議の開催による情報共有(5月、2月) (7)農業関係高校主催の民間講師招聘事業への講師派遣 (8)農業関係高校の保護者へ農大PRのプリントを作成し全員に配付 (9)各農業関係高校と連携し、9～10月頃に1・2年生を対象とした説明会を実施 (10)各振興局ごとに「担い手育成計画」に基づき各作物担当を入れた情報交換、部会等を通じた農業関係高校・農大への進学の働きかけ(本土地区は6月の学校訪問又は7月の懇談会、離島地区は6月の学校訪問にあわせて実施)、各振興局との連携(高校1年生を対象とした農業士による現地説明など)	【実績】入学試験合格者 30名(うち農大カレッジ参加者14名) R5:39名 (1)学生募集ポスター・パンフレットに学生4名の写真を取り入れた。 (2)県内の高校を訪問した。 73校(6月～7月) (3)高校主催ガイダンスへ参加した。 6校 (4)年2回のオープンキャンパスを開催した。(5/18・10/19) 参加者のべ58名 R5:48名 (5)農大カレッジを開催した。(7/13・14) 参加者24名 R5:43名 (6)農業関係高校・農大連携会議を開催した。(5/24・2/14) (7)農業関係高校の保護者へ農大のプリントを作成し配付した。(4月) (8)各農業関係高校の1年生が10～12月に来校した際、農業大学校についての説明を実施した。 (9)各振興局担当者にも6・7月の高校訪問に帯同していただいた。また、7月に地区懇談会を実施し振興局にも参加していただいた。	(1)昨年度から、1・2年生にターゲットを絞り農大のPRを行ってきたが、受験者数につながらなかった。 (2)ホームページの活用や関係機関との連携をさらに深めて、一般(高校既卒)の方たちが受験を検討しやすくするための情報の発信を行う。	教務課
		○農大訪問者やオープンキャンパス等の参加者へアンケートによるホームページの認知度確認70%以上 R5実績36.6%	(1)受験希望者やその保護者に興味をもってもらうよう、学生の学習成果やトピックス、スマート機器の導入、学科再編(コース制)の紹介、寮生活の様子など、ホームページによる情報発信内容の充実を図る (2)農大入学者、高校生などへのアンケート調査に基づく効果的な情報発信方法の見直し (3)アクセス履歴を集約し、閲覧者の関心が高い時期や内容の特定 (4)ホームページ更新回数(学科・コース目標) 野菜コース:60回、花きコース:20回、果樹コース:40回、畜産学科:35回、研修部:15回、教務課:20回、計190回	【実績】本校のHP認知度 30.5% R5:36.6% (1)前半では各種行事の更新ができていなかったが、後半はある程度の更新ができた。 (2)来校者へのアンケートを実施できた。 (3)昨年、アクセス数が4～6月に多かったため、その時期に約50回のトピックスを出すことができた。 (4)ホームページ更新回数 野菜コース:66回、花きコース:0回、果樹コース:26回、畜産学科:26回、研修部:28回、教務課:12回 計158回	(1)最終的な認知度調査では、昨年度より数値が下がってしまった。農大の説明と合わせてホームページのPRも積極的に行っていきたい。 (2)ページ更新を持続的にしていきたい。 (3)今年度は、8月と11月にアクセス数が多かった。8月は、夏休み中にオープンキャンパスなどに参加したい高校生が多くアクセスしたと思われる。また、11月は「飛雲祭」などイベントの検索が多かったと思われる。その時期に向けて情報発信の回数を増やしていく必要がある。	教務課
		○マスコミ等を通じたPR回数 20回 (R4実績:16回、R5実績:23回)	(1)魅力あるイベントの企画、開催 (2)新聞やTV(サンサン、ひまわり含む)を活用した農大の魅力発信 (3)課外市等の広報への投稿	【実績】PR回数 21回 (1)入学式(日本農業新聞、全国農業新聞、ひまわりテレビ)、ドローン実演(NB)、みじかなガサキ農大について「果樹コースのいちじく・マンゴー」(ひまわりテレビ)、雑誌「ながさきの果樹」、市報(西海市、苓崎市)、飛雲祭(KTN、課外ケーブル、ひまわりテレビ)、和牛販売会(NBC、KTN、NCC、長崎新聞、日本農業新聞)、九州プロジェクト発表会(日本農業新聞、全国農業新聞) (2)県ホームページに投げ込みを行った。 (3)イオン九州各販売店(佐世保地区・県南地区)への学生募集ポスター貼付	(1)ホームページの活用に合わせてメディアへの投げ込み等を行い、一般(高校既卒)の方たちが受験を検討しやすくするための情報発信を行う。	教務課
2	実践教育による、社会に役立つ人材の育成 (養成部)	○日本農業技術検定2級合格者(割合%) 2年生取得者40%以上(12名) (R4実績:28%(8名)、R5実績:16%(6名)) ○日本農業技術検定2級全国平均点以上達成者(割合%) 1年生全国平均点以上の学生数30%以上(12月受験) (R4実績:18%、R5実績:42%)	(1)「園芸概論」「畜産概論」等基本的講義の理解度向上 (2)2年生は特に7月での合格を目指し、問題集や小テスト等で指導するなど受験対策を強化 (3)1年生も7月受験の働きかけを強化し、3級未取得者は3級受験からのチャレンジを促し2級へのステップアップを図る (4)就職者は就職後の待遇改善、自営就農者では将来の経営拡大等における協力者確保において有利になるなどのメリットを説明し、モチベーション向上に努める 【2年生の2級合格 学科・コース目標】 野菜コース:6名(うち取得済み5名) 花きコース:2名(うち取得済み0名) 果樹コース:2名(うち取得済み2名) 畜産学科:3名(うち取得済み3名)	【実績】 ○日本農業技術検定2級合格者(割合%) 2年生の合格割合:41%(12名) 達成 野菜:5名(目標6名) 花き:0名(目標2名) 果樹:3名(目標2名) 畜産:4名(目標3名) ○日本農業技術検定2級全国平均点以上達成者(割合%) 1年生の12月試験における全国平均以上割合:3.6%(12名/2級受験者33名) 達成	○2年生2級合格者率 ・全体では目標を達成したものの、コース別には未達成のところがあったため、要因を分析し次年度の対策につなげる ・2級合格者のうち9名が1級の検定に挑戦するなどの意欲的な取組もあるため、引き続き支援を行う ○1年生の2級全国平均以上の学生数 ・普通高校出身者等に7月試験で3級受験を促し、8名が合格し成功体験を実感させながら、2級受験につなげることができた ・7月試験までで5名の学生(野菜1、花き1、畜産3)が2級に合格した	養成部
		○プロジェクト学習の内容充実 一定水準(70点)以上の発表 80%以上 (R4実績:76%、R5実績:95%)	(1)自主的かつ科学的な手法による栽培管理技術の習得 (2)テーマ設定にあたり自営就農予定者は将来の家業の課題を、就職予定者は就職先の品目等を想定した課題を設定 (3)卒論中間発表会(9月)、卒論発表会(2月)の内容充実に向けた確実な進捗管理の実施 (4)ルーラル電子図書館等を活用した最新技術情報収集・活用 【学科・コース目標】 野菜コース:12名/14名 花きコース:4名/4名 果樹コース:4名/4名 畜産学科:6名/7名	【実績】 ○一定水準(70点)以上の発表 ・100%(29名/29名) 達成	○一定水準(70点)以上の発表 ・九州地区プロジェクト発表大会において、本校代表として参加した野菜コースの学生が最優秀賞を受賞し、全国大会に出場するなど高い評価を受けた。 ・自営就農予定者は将来の営農を想定した課題、雇用就農予定者は就職先の品目等を想定した課題を設定するなどの取組を継続し、学生の主体的な試みを支援する。	養成部
		○農家等派遣研修の評価(35点以上の割合%) 受入農家からの一定水準以上の評価 1年生:70%以上 (R4実績:73%、R5実績:90%) 2年生:80%以上 (R4実績:66%、R5実績:68%)	(1)学生の特性をよく把握した上での農家とのマッチング (2)研修効果を高めるためコミュニケーション方法など事前指導の強化 ・コミュニケーション力向上に向け、実習時に報告・連絡・相談等の基本的な取組を徹底する ・必要に応じて研修期間中の巡回等振興局と連携し実施する 1年生:8日間(6月) 2年生:30日間(10月) (3)進路や学生の意向に応じた研修先や通学による研修など柔軟に対応する	【実績】 ○1年生 受入農家から5の評価(35点以上の割合) 74%(29名/39名) 達成 ・例年課題となるコミュニケーションの評価では8割以上の評価を得たものの、質問などの積極性が足りないとの評価であった。 ○2年生 受入農家から5の評価(35点以上の割合) 83%(24名/29名) 達成 ・研修先とのミスマッチを防ぐため、事前に面談等で進路に沿った研修先を具体的に検討したことが、モチベーションの維持につながった。	○農家等派遣研修の評価 ・1、2年生ともに目標を達成できたが、以下のような受入農家等の意見を踏まえ、より良い研修とするために必要な見直しを検討していく 【農家等意見】 ・学生の希望品目や作業内容とのミスマッチがあった ・非農家出身で雇用就農を希望する学生を受入れたい ・体力不足や作業に不慣れで効率が良くなかった ・指示待ちでなく自ら動く姿勢を見せたり、積極的な質問してほしい	養成部
3	就農に向けた進路指導の強化 (教務課、養成部)	就農予定者及び農業技術者 90%以上(26名) (R4実績:93%、R5実績:97%) ○自営就農意向者への就農計画の策定率 65%以上(4名) ○学生のインターンシップ人数 20名 (R4実績:21名、R5実績:27名)	(1)インターンシップ研修、農業アルバイトによる実践学習 (2)農業法人説明会への参加誘導 (3)農業関連企業とのマッチング会の実施 (4)県内JA等との説明会の実施 (5)各地域就農支援センターとの連携強化及び自営就農意向者への就農計画策定支援 【学科・コース目標・自営就農・雇用就農】 野菜コース:3+2名就農 花きコース:1+1名就農 果樹コース:0+0名就農 畜産学科:2+2名就農	【実績】就農予定者及び農業技術者 90%(26名) (1)インターンシップ 参加人数 のべ39名 R5:25名 (2)農業法人説明会 参加人数 53名 (3)就農相談フェア 参加人数 13名 (4)JA等説明会 参加人数 64名 【学科・コース・自営就農・雇用就農 希望者数】 野菜コース:3+2名 花きコース:1+1名 果樹コース:0+0名 畜産学科:2+4名	(1)複数のインターンシップに参加する学生があり、進路決定に時間がかかってしまった。 (2)インターンシップへ1年生の時期から参加できるようにしていく。 (3)各地域就農支援センターとの連携を強化し、非農家出身でも就職できる道筋をつくっていく。	教務課
		安全意識を持った農業機械利用者の養成とながさき農業オープンアカデミー開講(研修部)	(1)大特・けん引研修等における農作業安全指導(通年) 死亡事故の多い熱中症対策強化期間(5/1～9/30) 死亡事故の多いトラクター転倒事故対策強化期間(通年) (2)各地域への研修開催働きかけ(通年) (3)各地域での研修会の実施(通年)	【実績】 ○34回実施/30回計画(達成率113%) (1)大特・けん引研修26回、農作業安全研修6回(うち1回は計画) うち、熱中症対策は研修19回224名に対して注意喚起。 転倒事故防止は研修26回227名に対し研修を実施した。全ての受講者に対し、職務目標に掲げる3点についての説明と協力依頼した。 ・トラクター、転落転倒事故の実態。 ・シートベルト着用の有効性。 ・自毛・圃場、圃場間でのシートベルト着用 (2)4月24日開催の令和6年度長崎県農作業安全推進協議会において「農業機械研修実施要領」の振興局、市町担当者へ「農作業研修会の受入」を周知。 ・研修依頼があった場合は県域や来校は要日程調整のうえ受入、各振興局管内は振興局と役割分担し共同開催を働きかけ。 全県域の農業会議、新規就農研修センター、シルバー人材センター(五島振興局)及び肉用牛改良センターと連携し研修会の支援ができた。特に五島振興局へは今年度新たに働きかけ。	・農作業安全研修は計画的に実施しており達成の見込み、次年度は、県庁及び農大は県域の管轄し、地域を管轄する振興局へは資料や情報の提供を図り効率的な農作業安全研修に努める。	研修部
4	健康で風通しの良い職場作りの推進 (総務課、教務課、養成部、研修部)	○オープンアカデミーの内容充実 アンケートで満足と回答80%以上 (R4実績:80%、R5実績:92%)	(1)受講者募集(4～6月) ・振興局担当者会議の実施 (2)開講準備(アンケート内容検討含む)(4～6月) (3)開講(7～11月) (4)アンケート結果とりまとめ(7～11月) (5)結果分析(1月) (6)問題点と次年度に向けての改善点の整理(1月) (7)次年度カリキュラム案の作成(2月)	【実績】 ○基本講座の満足と回答 満足度は100%(達成率125%)、回答率は83%。 (1)受講者募集を推進し受講者数は13名(講座受講修了した者は12名)で定員数15名は概ね確保できた。講座の周知や推進を以下のとおり促進。 ・振興局から推進時に配布利用のチラシを3、4月に作成配布(担当者会、カリキュラム検討会の意見を反映)、本土振興局3振興局には出向き受講者推進を重点的に依頼。 ・5月にイン스타그램を開設、アカデミーに関する記事を周年掲載し講座PR。 ・4～12月、50才以下の大特・けん引受講農業者へ概要説明し推進。 (2)開講準備し アンケートは新たにFormsを活用し、アンケート回収及び集計の簡素化に取り組む。 (3)8月の台風で順延もあったが、5回の基本講座、1月に開催した修了者講座で全講座を終了。 (4)アンケート回収率が上がり、1月中旬まで提出を求め、1月中旬までとりまとめが延びた。 (5)アンケートの結果、満足度は100%(達成率125%)、回答率は83%。受講者の感想、要望や意見を収集。 (6)(7)振興局担当者会議(1/24)、実績検討会(1/31)、カリキュラム検討委員会(2/18)を実施し、課題の整理と次年度に向けて改善点を検討しカリキュラムに反映。	○受講者が目標数に達しなかったが、事講座終了時の受講の感想は概ね良好。 ・出席率が50%に達しない受講者が3分の1と本年は多かったこともあり、より受講者が参加しやすいよう講座の内容、開催回数、開始時間、開催時期、リモート対応など改善案をとりまとめた。 ・リモートについては、リモート会場の状況把握、接続、資料共有など運営の課題について把握したので次年度改善して運営する。 ・Formsを活用したアンケート方法は農大のとおりまとめが簡素化できるが、アンケート回収率が紙の提出と比較して低く、受講者に提出の依頼を徹底したが、次年度は改善工夫が必要であることが課題である。	研修部
5	健康で風通しの良い職場作りの推進 (総務課、教務課、養成部、研修部)	○職場内コミュニケーションの活発化	(1)毎日の班内ミーティング(班長・班員)実施により、業務の決定・進め方や進捗状況を確認・共有し、業務の進め方にアドバイスしたり、フォローや協力等話し合う (2)懇親会の開催にあたり、職員間の業務外での交流が有意義なものとなるよう、その日程調整、開催場所及びイベントの企画等に協力する(5回以上/年) (3)職員同士や学生に対する声掛けや挨拶を励行する	(1)日々の業務については、毎朝の全体ミーティングで、各班ごと当日の業務内容を確認し、情報を共有している。また、毎月の科長会議と職員会議では、有意義で自由な意見交換の場となるよう、業務内容の見直しや提案など問題なく実施できている。 (2)懇親会は、年5回の目標を達成見込みであり、職場外におけるコミュニケーションが図る機会を設けることで、業務の円滑化や風通しの良い職場環境作りの推進に繋がった。 実施済:歓迎会、忘年会、年始昼食会、還暦祝い(新年会) 今後予定:バレンタイン企画、送別会 (3)校内、学生寮内での挨拶は自然形で充分励行されている。	(1)～(3) 特になし。	総務課
		○業務の遂行に必要な柔軟な思考や知識の習得	(1)業務上のポジションや役割に有効な研修や講話等の選択的受講 (指名研修や全庁的なものを除く・1回以上/人) (2)ハラスメントに対する認識を共有するため、校内で研修会を開催する。 (安全衛生委員会による講師招聘又はWebなど)	(1)職員23名中、休暇等2名の職員を除く21名の職員が研修を受講し、自己研鑽の機会を設けることができた。 (在職者100%達成) (2)リーフレットの配布等に留まり、衛生委員会における専門家の講話など効果的な手段を講じることができなかった。	(1) 特になし。 (2)ハラスメントは、リーフレット等の紙面では理解が難しいため、今後も講師招聘等を衛生委員会を通じて働きかけるとともに、全庁的な研修等も注視し、互いに理解を深められるよう努めていく。	総務課